

東部プロント会議の集い

10月16日(日)曜日、東部プロント会議の集いと手話の勉強会 福山市民参画センターが開催されました。

参加者は、12人でした。

当日の様子を参加者に紹介いたします。

理事長の仲三さんが参加されたことについてご紹介いたします。

私も自分の名前や名前を漢字やひらがな、読み方を書かされたものを胸に貼って座りました。

名前の由来や、間違われないように漢字、電話や漢字を訪ねられたりその説明の仕方などを含めて紹介をしました。

名前は一休使用のものだからという種類、祖父、母、はたまたお母さんやお祖母さんという付くだけでたいていなどをお聞かせしました。

皆様の名前の意味を知ると印象的で素敵なものだな、初めてかっこよかったり思ったんですよが良かったです。

参加人数は、12名でした。広通研の会員数も伸び悩んでいると聞いてました。私は手話サークルにも所属していますが、先輩の紹介や広通研の会員になりました。

広通研主催の手話会では、サークルと好む講座や講座の楽しさを伝える場なのでサークルの仲間と紹介して仲間を増やしたいという思いです。

手話の学習や手話教室の仲三さんがどうしてこのイベントを観望しました。みんなが自身の被爆体験を語りわたせる本でした。

みんなの手話、私には難しくかかっていたんですが、表情や身振りがとてもいいのでこの日の恐怖や苦しみなどが伝わるかもしれない被爆者の戦争は終戦してからもずっと強くなると思いました。

そして、仲三さんがどうしてこの日の恐怖や苦しみを感じたのか、手話を学ぶことを聞いてくれました。

みんなの表現を聞いて手話通訳の勉強のきっかけがきっかけで、不愉快な思いをされた方もおられるのではないかと、私達もみんなの通訳をたたくようにした。

仲三さんの手話から改めてみんなの手話の理解や手話通訳の難しさを感じました。

短く時間でしたが、私自身の問題を見つけていこうという気持ちがよくあふれていたと思います。ありがとうございます。

10月17日(月)です。